

## 第 50 回 入学式式辞

本日は雨が降っていますが、やっと寒さも和らぎ、ようやく校内の木々や草花も芽吹き始め、今年も希望の春が巡ってまいりました。ただ今、普通科103名、福祉科16名、体育科26名、合計145名の生徒の皆さん、入学おめでとうございます。校長として心から祝福し、歓迎いたします。

今日のおよき日を迎え、入学を許可された今、これから始まる高校生活に思いをはせ、期待や希望で胸をふくらませていることと思います。ぜひ、入学した今の心を忘れずに、これからしっかりと学び、高校生活を十分に満喫してください。

本校は、今年度、創立50周年を迎えます。この野津田の地に、都立高校をという、地元の熱望に応え、開校された学校です。開校当時から、「未見の我の発見」を教育目標の一つに掲げ、変化の激しい社会をたくましく、心豊かに生き抜く人材を育成してきました。「未見の我」は、幕末の教育者として知られる、吉田松陰が残した言葉に端を発しています。その意味は、まだ出会ったことのない自分。試練を経て、成長した先にいる新たな自分を発見できるように考えた教育目標です。人生をかけて挑む目標と、今年度は、身近な日々の授業を大切に、生徒の主体的な関わりで学校行事を盛り上げていこうと考えております。

さて、これまで皆さんの多くが通っていた中学校は義務教育として、皆さんが住んでいる地域ごとに決められた、中学校に通う人が多くいたと思います。では野津田高等学校は、数ある高校の中から、皆さんが自ら志望し、入学者選抜で合格した学校です。この自らが志望したことがとても大切なことです。今日から中学校時代の気持ちを切り替えることで、皆さんのこれからが決まってきます。これからの高校3年間でしっかりと心身を鍛え、生きる力を身につけ、将来への準備をすることが大切です。そこで、野津田高校に入学した皆さんに、これから始まる高校生活で心がけて欲しいことを二つ、伝えます。

一つ目は「諦めない心」です。車椅子の物理学者としても知られるホーキンス博士は、ALSという難病と向き合いながらも50年以上にわたり、常に宇宙物理学の最先端で研究を行い、広く市民に向けて科学を発信し続けていた方です。彼の画期的な研究成果もありますが、「自分の足元を見るのではなく星を見上げなさい。」と、こんな言葉を残しています。この言葉は、幾多の困難に立ち向かい、乗り越えてきた彼だから真実味があります。「自分の足元」いま置かれている現状がどんなに困難に思えて

いても、「星を見上げなさい」できることはあり、諦めさえしなければ、必ず望みが見えてくる。彼のような壮絶な困難を経験しなくても、皆さんも困難にあわない人は、いないと思います。人それぞれ時期や内容、どの程度など、差はありますが、難しい状況に出くわし、それを乗り越えたあとで、前の自分よりも成長している自分に気づきます。もしも小学校や中学校で、うまくいかないことや嫌な思い出があったとして、今日からは、新しい環境です。まずは学校に来て、周りの人と話してみましょう。昨日までの自分とは違う、野津田生として、諦めることなく、意味あるものに挑戦し続けてください。

二つ目は、「自律の心」を持つことです。自律とは、自分の行動を自分で正しくコントロールできることです。例えばスマートフォンでオンラインゲームをやりたいと思っても授業開始のチャイムが鳴り始めたらどうしますか。今やらなければならないことに気づき、注意されなくても自分から判断して行動する。「本当の自由とは何か」を問い、考えることで自律の心を育てることが出来ます。高校では、将来、社会人として必要なルールやマナーを学ぶところでもあります。思いついたらすぐに言葉を投げつけたり、行動したりするのではなく、社会人として正しいのかを、自らの心に問いかけてから行動をすることを心がけてください。高校は、集団生活の場です。皆さんの一人一人が、自律の心を持って行動すれば、集団としての大きな力を発揮することが出来ます。是非、自律の心を育ててください。

最後になりますが、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。本校にお子様が入学できたことがゴールではありません。お子様の希望する進路を勝ち取り、ご卒業する日まで、生徒と保護者の皆様と共に、教職員の力を結集し、より良い学校作りをしてまいります。どうかこれからも、車の両輪のように、お子様の成長に寄り添うご支援、ご協力をお願い申し上げまして、入学式の式辞といたします。

令和6年4月9日 東京都立野津田高等学校長 高柳 勝彦